

ともに語る



2024 年 8 月 30 日発行

帯広養護学校では、特別支援教育や教育相談、関係機関などに関わる様々な情報発信をしていきます。相談支援部通信「ともに語る」は、年に数回の発行を予定しています。本校のホームページにも掲載いたしますので、ご覧ください。

今号では、毎年実施している自立活動研修1「車いす mini 講座」の報告、特別支援学校高等部への進学について、個別の教育支援計画について掲載しています。是非ご一読ください。

1 自立活動研修1「車いす mini 講座」報告

今年度本校では全校 222 名のうち、日常的に車椅子を使用している児童生徒が 31 名（全体 14%おり、小学部 2 年生と中学部 1 年生以外の学年に在籍しています。

そのため、例年新学期が始まる前に新採用・転入職員を中心に車椅子の基本操作の講義・演習を行っています。

車椅子の操作（ブレーキがかからない、異音がする等）で疑問を感じたら、複数の教員で状況を確認することなどを、みんなで共有しました。

○乗車前の安全確認

- ・タイヤの空気を確認
- ・ブレーキがかかっているか確認
- ・転倒防止バーの設置



○乗車時の留意点

- ・骨盤が座奥に収まっているか
- ・ベルトが締まっているか、フレームから手や足が飛び出していないか
- ・「動きます」の言葉を掛ける

○乗車中・介助時の留意点

- ・止まるときには言葉を掛け、一時的であってもブレーキをかける
- ・段差に上がる際は、ティッピングレバー（もしくは転倒防止バー）を踏み、車椅子をゆっくり持ち上げる
- ・スロープを降りる、あるいは段差を降りるときには、車椅子を進行方向に対して後ろ向きにして進む
- ・教室の出入り口は、後ろ向きで出ること方法としてあることを確認
- ・車椅子の介助操作は教師が行う



2 特別支援学校高等部への進学について

特別支援学校高等部の進路に関わる合同説明会

令和6年5月14日（火）、北海道教育庁十勝教育局にて「特別支援学校高等部の進路に関わる合同説明会」（主催は十勝特別支援教育推進ネットワーク協議会『通称：とかねっと』）が行われました。進路指導に関わる十勝管内の小・中学校、特別支援学校小・中学部の教員向けに、4校（分校を含む）の特別支援学校のコーディネーターが学校の概要や教育課程、進路に関わる説明をしています。（説明した学校は、帯広養護学校の他に、中札内高等養護学校、幕別分校、新得高等支援学校）

今回の通信では、合同説明会の資料より抜粋した情報を掲載します。

進路を決定するにあたって

「高校受検と言えば中学校3年生」というイメージをもっていないですか？たしかに受検をするのは3年生ですが、それまでの準備は小学校のときから始まっています。

「中学校卒業後の学校をどう選ぶのか」は、どのような生き方をしていきたいか？という大切な選択となります。お子さんや保護者が進め方を理解した上でしっかりと話し合い、最終的には本人が決められるような進路支援が望ましいと思われます。

進路先を決める際に大切なことは、「学校の特色（教育課程）の違いについて理解する」「本人の将来像についてイメージをもつ」「本人が『この学校に通いたい』と希望をもつこと」が挙げられます。



高等支援学校と高等部の違いは・・・

(1) 学び方が違う (2) 卒業後の生活の傾向が違う

これを踏まえて・・・

①受検しようと考えている学校の作業体験会や学校公開、教育相談を受ける。

→実際に見て、聞いて、体験する。

通学方法、学習内容、学習集団など諸条件を検討する。

②お子さんと一緒に受検先を考える。

③分からないことがあれば指導グループ担当に聞く。

積極的に学びたいと思える学校を選択できるよう、お子さんと保護者が納得して決めることが大切です。

中学校段階における、進路決定に向けた具体的な流れのイメージ

1年生	2年生	3年生
選択肢を知る準備期間 ・情報収集 ・学校の種類 ・卒業後のイメージ	体験をとおして具体的な検討へ ・教育相談・学校見学・作業体験会への参加 ・進学先や将来の具体的なイメージをもつ	目的を明確にし、希望校を選択・決定 ・教育相談を経て、進路希望を確認・決定 ・受検に向けた話し合い、入学者選考検査

進路先を決める際、大切なこと

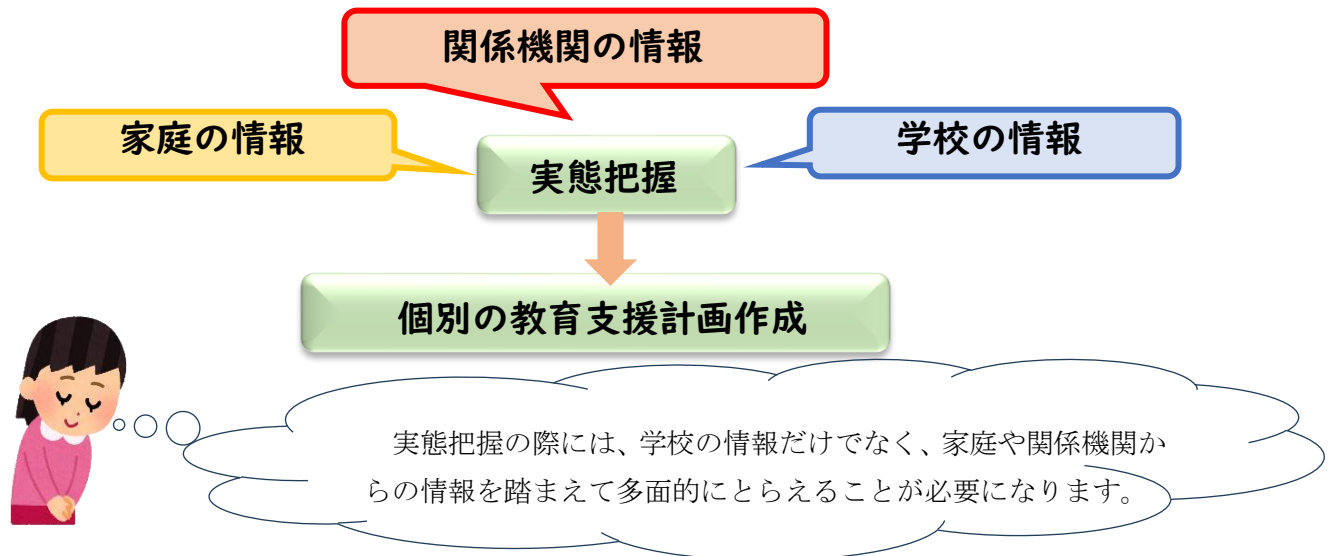
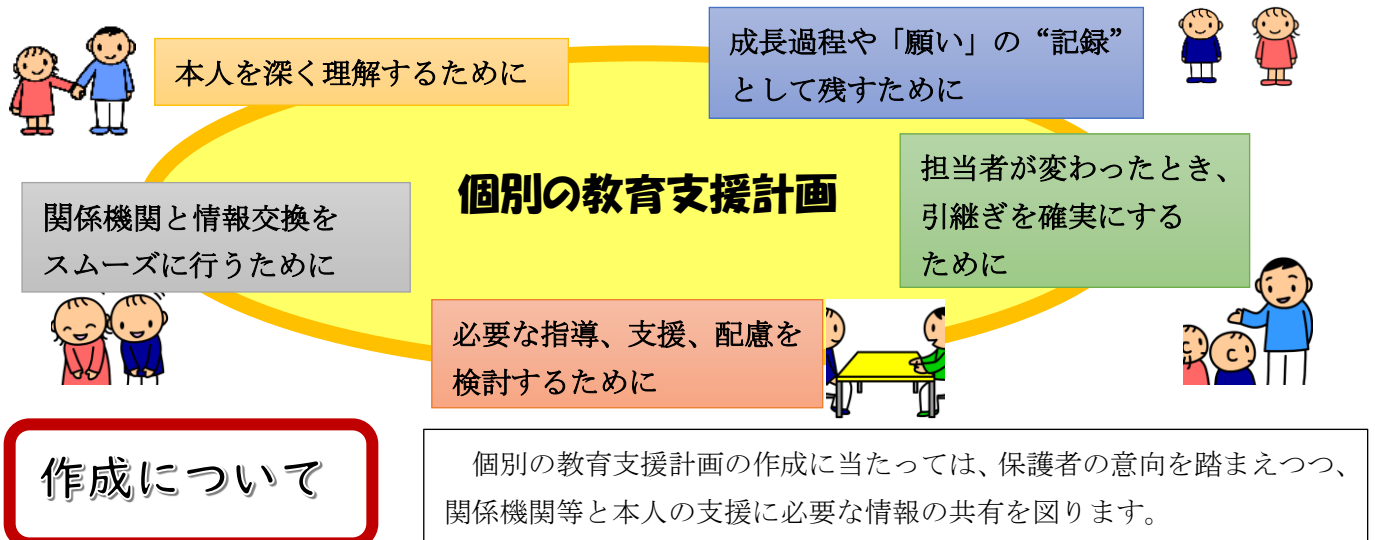
- ・学校の特色（教育課程）の違いについて理解すること
- ・本人の将来像についてイメージをもつこと
- ・本人が「この学校に通いたい」と希望をもつこと



参考・引用資料：「令和6年度 特別支援学校高等部の進路に関わる合同説明会～特別な配慮を要する生徒の進路を考える先生方へ～」スライド資料より

3 個別の教育支援計画について

個別の教育支援計画は、児童生徒の教育的ニーズに基づき、保護者や関係機関と連携を図りながら、長期的な視点で教育的支援を行うことを目的に、学校が作成するものです。そして、本人や家族が望む地域生活の実現を願い、児童生徒や保護者の教育的ニーズを把握するとともに、福祉、医療、労働等の関係機関と連携を図りつつ、小学部から高等部卒業までの長期的な視点に立って、一貫して的確な教育的支援を行っていくための計画となります。



毎回、特別支援教育や障害者福祉に関わるお薦めの書籍や情報などをご紹介します。



『感覚過敏の僕を感じる世界』 著者 加藤 路瑛(かとう じえい)

この本では、子どものときのことも覚えていて、大人と同じ視点で語れる著者が、「感覚過敏に気付くまで」と「感覚過敏に気付いてから現在まで」を思い出しながら、何に困っていたか、どう改善したか、試行錯誤しているか、なども語ります。

同じ出来事に対する著者のお母さんの解釈や考え、専門家(小川修史先生/兵庫教育大学准教授)の解説も掲載。「感覚過敏に悩んでいる人」にも、「感覚過敏に悩む人を支えたい人」にも役立つ情報が満載です。

(今号は木村、下津が担当しました)